

企画総務委員会 送付 7-4-1

旧永田町小学校、幼稚園校舎に付き陳情者と委員会の懇談を求める陳情

受付年月日 令和7年12月1日

陳 情 者	提出者	1名
	署名者	6名
	計	7名

令和7年12月1日

千代田区議会議長 秋谷こうき様

陳情書

【旧永田町小学校、幼稚園校舎に付き陳情者と委員会の懇談を求める陳情】

理由

令和7年10月20日に旧永田町小学校の解体が決まったことを前提に、千代田区では記録保存の意見を求める意見募集が始まりました。それに対して、令和7年10月15日にいずれも解体を中止してほしいという趣旨の陳情書が2通提出されました。

これらの陳情書は区議会「企画総務委員会」に付託され、11月7日の委員会において審議された結果、継続審議となっています。

審議の際、全ての委員から「区民の意見をもっとていねいに聞くべきである」といった趣旨の発言があり、大変心強く感じました。しかし理事者の答弁は土地に価値があることを繰り返すばかりで、建物の文化財として、歴史的価値に言及しないことを聞き、もっと訴えたいことがあるのに発言ができないことに歯がゆさを感じていました。

私たち陳情者は「永田町小学校・幼稚園から千代田の教育と文化を考える会」として活動しており、卒業生、卒園生、元保護者やその家族、近隣住民、建築の専門家など様々な関係者がそれぞれの立場から意見や知見を持ち寄っています。

私たちは単に個人的な思い出や感傷から校舎を解体しないでと訴えている訳ではありません。旧永田町小学校・幼稚園の校舎は、建築の歴史として価値があるものであり、その文化財である校舎を、今千代田区民が必要としている教育施設等として活用することが経済的にも、地球資源の活用としても有効であると深く考えるからです。

そこで学び、教えてきた人々と共に戦火を潜り抜け戦後の歴史を作ってきた生き証人である校舎を、解体して記録にしてしまうのではなく、活用して、生きた文化遺産として次の世代に伝えて行きたいと思います。

つきましては区議会企画総務委員会において、私たちの声を聞く懇談の場を設けていただくことを希望し、ここに陳情します。

